

鑑寺、圓照寺、中宮寺などの尼宮なり、長橋の奏者所より參らる、常御殿にて、ひし花びら、きじ、大服茶、硯蓋のさかなにて、一獻參る。十一日、諸禮、院家諸寺、非藏人の御禮なり、小御所代也の上段に出御なり、下段にて御禮申す、非藏人は簀子なり、をはりて玄ばし小庇にまします。此間に御座を改め小御所へ出御なる、八幡の三坊田中、善法寺、寺下段にて御禮申す、次に御醫庇にて御禮申、上段の黒縁まで進み天脉を伺ふ、何れも申次は職事なり。廿日、法中參内、今日養源院、法淨院、南禪寺、五山の僧侶參内あり、總て諸禮に同じ。大德寺妙心寺に限り、中段にて御禮申す。廿一日、法中參内、今日小池坊、智積院、蓮臺寺、本國寺など參内あり、諸禮に同じ。

〔看聞日記〕應永廿四年正月一日、早旦於新主光○稱御方三觴祝著了、佛前參舊主光○崇尊前燒香禮拜、其後供強飯如例、三位源朝臣、重有朝臣、長資朝臣以下候、女中新尼公號斟酌或不候、或祇候云年始、云代始、祝著之儀雖不相替、心中舊事戀慕而已。十二日、總得菴參賀、一獻持參、有盃酌、抑新主御方又一獻、御寮明元等被召、賜引出物、退出之後、予光院○後崇御方へ新主入申、但御方狹少之間、於常御所有一獻三位以下壽藏主等候、殊更表賀禮畢。十三日、治部卿經時朝臣參賀、於御前賜一獻。十四日、予聊益酌申沙汰、右少辨經興參賀、布衣一獻料五百疋○榮仁親王ノ未申其禮、旁以表御禮歟、御對面有一獻三位以下候、近衛局被祇候略○中五獻畢退出、予不對面行豐參賀、一獻持參、又一獻重疊、新主御沈醉無極。十七日、正永參賀。

〔御湯殿の上の日記〕長享三年正月一日、とざまのばんしゆ御れいども申、御たいめんあり。二日、とざまの御れい申さる、三日、こよひとざまの御れい申、をぐらの宰相御さか月たぶ、〔宣胤卿記〕長享三年正月四日癸亥、今日隆量卿、番代宣秀參候之間、夜著束帶、申年始之御禮云々、六日乙丑、黃昏著衣冠參内、當番之次申年始之御禮、申次以量朝臣也、出御議定所、入戸内、於板拜龍顏實澄朝臣、長胤於戸外簀子拜天顏。